

## 現状分析（サービス見込み量の進捗管理）

### （１） ほくとゆうゆうふれあい計画のサービス見込み量等の計画値

ほくとゆうゆうふれあい計画（以下「計画」という。）には計画期ごとの各サービスの見込み量（利用者数、回数等）が記載されています。これらの進捗状況を随時確認して、現状の実績値と計画値との乖離の程度を把握します。

実績値が計画値を下回っている場合には、施設・事業所の基盤整備やサービスの普及等が想定どおり進んでいない可能性があります。逆に、計画で見込んだ量を大きく上回ってサービスが利用された場合、これに伴い給付費の総額が想定していたものを上回り、設定した保険料額では不足が生じないかを判断します。

### （２） 毎年度の進捗管理

計画は、その策定スケジュールに合わせて3年ごとに見直され、進捗管理が実施されてきたところではありますが、随時サービスの利用動向を確認し、計画作成時に想定していたものとの相違を確認し、課題が生じていれば何らかの取組の開始を検討する必要があります。年度ごとに、PDCAサイクルを活用して進捗管理を実施し、各年度の予算や事業の改善に反映していきます。

なお、計画の進捗管理においては、他市町村の給付等の動向やその全国平均値が閲覧できる、地域包括ケア「見える化」システムを活用します。給付費は認定率、受給率、受給者1人当たり給付費に分解できることから、これら各指標について計画値と実績値とを比較することにより、サービス見込み量の進捗管理を実施します。

### （３） 第6次計画策定に向けた準備

これらを通じて得たデータや気づき、策定委員会の御理解と御協力のもと、計画策定年度において高齢者やサービスの実態等を調査して分析し、円滑に計画を策定することが可能となります。保険料額の妥当性のみならず、地域の関係者とサービス提供体制の妥当性等を確認し、必要な取組等を検討します。